

事業区分 地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業  
事業名 子どもゆめ基金助成金募集説明会

- [ 主催 ] 国立阿蘇青少年交流の家(企画・運営:熊本「体験の風をおこそう」運動実行委員会)
- [ 期日 ] 熊本会場 : 令和3年9月16日(木)／個々のリモート(Zoom)開催  
大分会場 : 令和3年9月24日(金)／会場でのリモート(GoogleMeet)開催
- [活動場所] 熊本会場 : ー  
大分会場 : J:comホルトホール大分
- [ 参加者 ] 熊本会場 : 10団体 12名  
大分会場 : 10団体 13名
- [担当職員] 2名

## 1 趣 旨

子供達に様々な体験活動を提供している民間団体等に、子どもゆめ基金についての説明会を開催することで、子どもゆめ基金を活用した体験活動の機会を増やし、より多くの子供達に体験活動を提供することに寄与する。

## 2 目 標

- (1) 子どもゆめ基金部からの詳しい説明により、子どもゆめ基金の概要や申請書等の留意点を理解する。
- (2) 質疑応答や個別相談の時間を設けることで、団体等の関係者の疑問点を解消し、今後の円滑な応募手続きを進める。
- (3) 子どもゆめ基金を活用した体験活動の機会を増やし、より多くの子供達に体験活動を提供する。(機構として取り組む”子供の貧困対策”を含む。)

## 3 事業展開

	13:00		14:00		15:00		16:00	
各回共通	受	開	全	全	閉	個		
	付	会	体	体	会	別		
			説	質		質		
			明	問		問		



【大分会場:全体説明】



【大分会場:個別質問】

## 4 成果と課題

### (1) 成果

- コロナウイルス感染対策を考慮し、ICT(ZoomやGoogleMeet)を活用したことで、新たな実施形態を試行することができた。  
特に、Zoomを活用した個々をつないだリモートは、参加者の移動による負担や感染症対策の面からも好評であった。
- これまで「子どもゆめ基金助成金」に申請したことがなく、本事業に参加することで初めて『申請したい』と回答した割合が73%と高く、子どもゆめ基金を活用した体験活動の機会を増やすことに寄与した。
- 特に、子どもゆめ基金助成活動の実施にあたっては、当施設を活用した活動を展開してもらえるようPRすることができ、63%の参加者が当施設の活用を希望または検討したいとの声があった。
- また、“子供の貧困対策”として、熊本県及び大分県内の児童養護施設・母子生活支援施設にも広報したところ、コロナ禍にも関わらず5園からの参加があった。今後、当施設の利用を積極的にPRすることとした。

### (2) 課題

- 当施設を活用した助成活動を希望または検討している団体もあることから、当施設の活動プログラムや利用方法を細かに説明する機会を設けたり、申請書の記載方法等への相談に応じたりするなどの支援を新たに行う必要がある。
- 次年度以降も従来の対面での説明会のみならず、リモートによる参加も選択肢として盛り込むことを求めるアンケート結果があった。より多くの体験活動の機会が増えていく可能性や実現性等について、子どもゆめ基金部助成課と検討を図る必要がある。
- コロナウイルス感染症に伴う東京での「緊急事態宣言」により、助成課職員による対面での説明会ができず、やむなくリモート開催となった。  
熊本会場においては、参加者個々をつなぐZoomで実施できたが、大分会場においては、参加者を一堂に集めた会場と東京とをつなぐリモート形態となった。  
これにより、大分会場の参加者からは、「リモートであればわざわざ会場に集まる意味がない」「自宅でのオンラインで開催してもらえると安心できるのではないか」といったような実施形態に対する疑問の声が寄せられた。今後は参加形態の選択肢を増やすなどの工夫を助成課に求める必要がある。